学科 学年	1	年	T学基礎 (Fundamentals of Engineering I)							
概	要		1年次に学習する共通実験と並行して学習する。工学を目指す初学年者にとって、最も基本的で重要な工学の基礎を学習する。これは2年生以降の高学年でも専門性が異なっても共通する重要事項の学習内容である。							
科目目標 (到達目標)			工学に共通の基礎知識を身につける							
教科書 器材等 			沼津高専・工学基礎実験指導書・関数電卓							
評価の基準と 方法		と	授業時間内に行う2度の試験および学年末の定期試験の平均点で評価する。満点の60%で合格とする。ただし、レポート等により、十分に学習内容を理解したことが確認できた場合は最低点で合格させることがある。							
関連	科目		工学基礎実験							
			授業計画							
回	期	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)							
1			なぜ工学を学ぶのか(大教室) ・沼津高専のアドミッションポリシーと教育目標 ・工学を学ぶ心得 ・技術者倫理							
2			事故防止のための安全教育(1):薬品の安全な取り扱い方①							
3			事故防止のための安全教育(2):薬品の安全な取り扱い方②							
4			事故防止のための安全教育(3):薬品の安全な取り扱い方③							
5			電圧電流測定技術(1):電圧計と電流計の原理と基本的使用方法, 電卓の使用法							
6	I		電圧電流測定技術(2):電圧計と電流計の原理と基本的使用方法,電卓の使用法							
7			電圧電流測定技術(3):電圧計と電流計の原理と基本的使用方法,電卓の使用法							
8			沼津高専の勉強							
9			B告書の書き方(1):実験ノートのとりかたとノートの重要性							
10			報告書の書き方(2):グラフと図の書き方							
11		×	まとめと試験(1)							
12			事故防止のための安全教育(1):火気の安全な使用と作業服の重要性①							
13		事故防止のための安全教育(2):火気の安全な使用と作業服の重要性②								
14			事故防止のための安全教育(3):火気の安全な使用について③,地震対策							
15			事故防止のための安全教育(4):電気器具の安全な使用について①							
16	Π	Ⅱ 事故防止のための安全教育(5):電気器具の安全な使用について②								
17			事故防止のための安全教育(6):電気器具の安全な使用について③							
18			誤差と有効数字(1):有効数字の桁数、有効数字の丸め方、精度と誤差							
19			誤差と有効数字(2):有効数字の桁数、有効数字の丸め方、精度と誤差							
20			誤差と有効数字(3):有効数字の桁数、有効数字の丸め方、精度と誤差							
21		×	まとめと試験(2)							
22			事故対応について(1):事故時の報告・連絡・相談							
23			事故対応について(2):応急処置①							
24			知的財産について							
25		単位と工業規格(1):SI単位と組立単位およびJIS規格について①								
26	Ⅲ 単位と工業規格(2):SI単位と組立単位およびJIS規格について②									
27	_		単位と工業規格(3):SI単位と組立単位およびJIS規格について②							
28		地球環境問題:工学技術の発展と環境問題								
29		地球環境問題:ごみの分別と排水処理								
30		地球環境問題:環境倫理, 持続可能性								
期末試験	į	×								

	8		-			1		
学科	工学基礎Ⅱ 科目 (Firm derivated last)	講義	H24前後期	学習教育 目標	(m.)	各専門学科教員		
学年 1年	分類 (Fundamentals of Engineering II)					技術室・技術職員		
	Engineering 11)							
概要	工学の基礎を支える工学基礎	*分野の実	験・実習る	を通して	幅広く	学習し、基本的な知		
194. 安	識を身につける。							
科目目標	工学に共通の基礎知識を身に							
(到達目標)	鑽を計画的に進めることがで	できる能力	と姿勢を	身につけ	ること	を目標とする		
数31 書								
教科書 器材等	各実験で配布されるプリント	を指導書	とする。					
評価の基準と	評価点配分:授業に取り組む							
方法	ポートの内容(20%)、創造的思考(一つの事柄について様々な角度から考えられる・自分なりの考えを提案できる・実現できるような具体的考えを提案できる等の							
	要素、10%)							
関連科目	工学基礎 I							
NÆ11 h		授業計画						
	}		h.h.i» 45 400	(100) - v Cn.33	* > ====	1. 4. 4. 4. 1. 1. 1		
参観	(授業は原則として教員が自由					「変観でさません。)		
第 1回	工学基礎IIのガイダンスと安	(主教月:	3クノヘ省	「同じ夫』	世9 つ			
第 2回 第 3回	機械分野:正しいネジの使い	、方						
第 4回 第 5回	電気分野:抵抗の測定							
第 6回						第1期:各分野の実		
第 7回	化学分野:食品成分の検出					験をクラスのロー テーションで実施す		
第 8回						3		
第 9回	ものづくり分野:モーターの	分解						
第10回								
第11回	情報分野:計測と誤差							
第12回								
第13回	機械分野:スターリングエン	/ジン						
第14回								
第15回	電気分野:コヒーラ							
第16回						第2期:各分野の実 験をクラスのロー		
第17回	()告述(分冊・1/日// ヲヽ 1///				ー テーションで実施す			
第18回						る		
第19回	化学分野:化学電池の作成							
第20回								
第21回	もの作り分野:レゴによるロ	1ボット制	御					
第22回	第3期ガイダンス競技内容の	説明						
第23回	標準機の組み立てとルール説	钥						
第24回	アイデア出しと提案書作成							
第25回	班別作業①					第3期:学生自らの		
第26回	班別作業②					創造性を発揮する		
第27回	班別作業③					PBL教育を行う		
第28回	班別作業④							
第29回	競技会							
第30回	総括							
オフィス アワー								
授業アンケートへの対応								
備考								
更新履歴	20120911更新							

このシラバスは、「情報処理基礎」に関するものです。

この科目は、専門科目ですから、シラバスは各学科が管理します。

しかし, 2012年度は混合クラスで実施しますので, 例えばM科の学生は 1-1 から 1-5 までのどこかのクラスで学ぶことになります. 従って, 5枚のシラバスを, 各学科で掲載してもらうことにいたしました.

次のページから各クラスのシラバスをご覧になれます.

クラスによって.

- 担当者が異なる
- 実施する曜日が異なる
- ・前期中間試験までに実施する回数が異なることがある. 授業の進み方は、大きく2つのグループに分けられる.
- 1-1と1-3と1-4が一つのグループであり、1-2と1-5がもう一つのグループである. という違いがありす.

しかし、基本的にはどのクラスでも同じ教育が行われます。ある週だけ見るとクラスごとに進み方に違いがあるように見えるかもしれませんが、平均的には各クラスの授業の進み方はほぼ同じペースですし、年間の授業回数は同じですから最終的に学ぶ内容も同じです。

1-1クラスと、1-3クラスの担当は非常勤の教員であり、授業の無い曜日には沼津高専には出勤しません。そのクラスの学生が、別の曜日に授業に関する質問をしたい時は、同じ授業をする別の教員に問い合わせることができます。

※ 第1回目の授業の学生集合場所は、1-1 から 1-5 までのホームルームです。そこで着席して待っていてください. 時間には担当教員がホームルームまで出向き、そこから総合情報処理センターまで案内します.

学年 1	科目 情報処理基礎 講義 通	年 学習教育 内田正章 内田正章 担当							
学科(1年 はクラス) 11	分類 Introduction to Information 工echnology 必修 2単								
概要	コンピュータの普及により情報社会となった現在では、 ルールとマナーが求められる時代になってきている. 特した際に、ルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルラブルを起こしていることがある. これらの現状を踏ま、全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンつけることを目的とする.	こ, 最近ではコンピュータやネットワークを利用 に巻き込まれたり, 逆に知らず知らずのうちにト え, 本講義では, 情報モラルを含めたコンピュータ							
科目目標 (到達目標)	コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータ機器やネットワークをルールやマナーを持って利用できる.								
教科書 器材等	インターネット社会を生きるための情報倫理2012(実教出版) 情報セキュリティ読木三訂版(実教出版) ネットワーク社会における情報の活用と技術三訂版(実教出版)								
評価の基準と 方法	4回の定期試験80%, プレゼンテーション・課題レポート・小テスト20%により評価する. 授業内容に関わる違法行為等があった場合は特別に減点する場合がある.								
関連科目	各科の情報系科目								
	授業計画								
参観 第 1回	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、 総合情報センター利用案内	参観欄に×印がある回は参観できません。)							
12 23 34 56 67 89 10 11 10 10 10 10 10 10	電子ページによる情報の受信・発信情報の受信・発信情報の受信を発信情報と知的財産情報と知りまる情報と知りまる情報と知りまる情報と知りまる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	前または終了後							
への対応									
備考									
更新履歴	20120330 新規								

No. 1									
学年 1	科目								
学科(1年 はクラス) 12	分類 Introduction to Information Technology								
概要	コンピュータの普及により情報社会となった現在では、コンピュータを使った世界でも実社会と同様にルールとマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータやネットワークを利用した際に、ルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルに巻き込まれたり、逆に知らず知らずのうちにトラブルを起こしていることがある。これらの現状を踏まえ、本講義では、情報モラルを含めたコンピュータ全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンピュータを適正に使うための最低限の知識を身につけることを目的とする。								
科目目標 (到達目標)	コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータ機器やネットワークをルールやマナーを持って利用できる.								
教科書 器材等	インターネット社会を生きるための情報倫理2012(実教出版) 情報セキュリティ読木三訂版(実教出版) ネットワーク社会における情報の活用と技術三訂版(実教出版)								
評価の基準と 方法	4回の定期試験80%, プレゼンテーション・課題レポート・小テスト20%により評価する. 授業内容に関わる違法行為等があった場合は特別に減点する場合がある.								
関連科目	各科の情報系科目								
6.20	授業計画								
参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。) 総合情報センター利用案内								
第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	総合下級との一人の大きな情報の受信・発信を表信を表信を表による情報の受信・発信を表による情報の受信・発信を報酬を表における生活で、								
への対応									
備考									
更新履歴	20120326 新規								

	桂叔加珊甘珠								
学年 1	科目								
学科(1年 /はクラス) 13	分類 Introduction to Information Technology								
概要	コンピュータの普及により情報社会となった現在では、コンピュータを使った世界でも実社会と同様にルールとマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータやネットワークを利用した際に、ルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルに巻き込まれたり、逆に知らず知らずのうちにトラブルを起こしていることがある。これらの現状を踏まえ、本講義では、情報モラルを含めたコンピュータ全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンピュータを適正に使うための最低限の知識を身につけることを目的とする。								
科目目標 (到達目標)	コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータ機器やネットワークをルールやマナーを持って利用できる.								
教科書 器材等	インターネット社会を生きるための情報倫理2012(実教出版) 情報セキュリティ読本三訂版(実教出版) ネットワーク社会における情報の活用と技術三訂版(実教出版)								
評価の基準と 方法	4回の定期試験80%, プレゼンテーション・課題レポート・小テスト20%により評価する. 授業内容に関わる違法行為等があった場合は特別に減点する場合がある.								
関連科目	各科の情報系科目								
	授業計画								
第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参觀欄に×日がある回は参観できません。) 総合情報センター利用案内 電子メールによる情報の受信・発信 情報社会の個人情報と知的財産 情報社会における生活 Scratchによるプログラミング実習 復習 前期中間試験 セキュリティを守る技術 ワードプロセッサー プレゼンテーション プレゼンテーション プレゼンテーション プレゼンテーション 複習 前期末試験 スプレッドシート コンピュータの仕組み 情報のデジタル表現 情報のデジタル表現 情報のデジタル表現 情報のデジタル表現 情報をデジタル表現 情報をデジタルを利用した問題解決(1) コンピュータを利用した問題解決(3) コンピュータを利用した問題解決(6) 復習 学年末試験 総括 非常勤のため、質問に対応できるのは開始前または終了後								
備考									
更新履歴	20120330 新規								

学年1科目 分類情報処理基礎 Introduction to Information Technology講義 必修 2単位担当2単位概要コンピュータの普及により情報社会となった現在では、コンピュータを使った世界でも実社会と同様ルールとマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータやネットワークをした際に、ルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルに巻き込まれたり、逆に知らず知らずのうちラブルを起こしていることがある。これらの現状を踏まえ、本講義では、情報モラルを含めたコンピュータを適面に使うための最低限の知識を全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンピュータを適面に使うための最低限の知識をつけることを目的とする。科目目標 (到達目標)コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータ機器やネットワークをルールナーを持って利用できる。教科書 器材等インターネット社会を生きるための情報倫理2012(実教出版) 情報セキュリティ読本三訂版(実教出版) ネットワーク社会における情報の活用と技術三訂版(実教出版)評価の基準と方法4回の定期試験80%、プレゼンテーション・課題レポート・小テスト20%により評価する。技術に関わる違法行為等があった場合は特別に減点する場合がある。
14
概要 ルールとマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータやネットワークをした際に、ルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルに巻き込まれたり、逆に知らず知らずのうちラブルを起こしていることがある。これらの現状を踏まえ、本講義では、情報モラルを含めたコンピュ全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンピュータを適正に使うための最低限の知識さっけることを目的とする。 コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータ機器やネットワークをルールナーを持って利用できる。 オンターネット社会を生きるための情報倫理2012(実教出版)情報セキュリティ読本三訂版(実教出版)常報セキュリティ読本三訂版(実教出版)。ネットワーク社会における情報の活用と技術三訂版(実教出版) 評価の基準と 4回の定期試験80%、プレゼンテーション・課題レポート・小テスト20%により評価する。表
(到達目標) ナーを持って利用できる.
報付音
関連科目 各科の情報系科目
授業計画
(
備考
更新履歴 20120330 新規

学年	1	科目	情報処理基礎	講義	通年	学習教育 日標	나다 기간	望月孔	_ <u>_</u> ,	山之内亘
学科(1年 はクラス)	15		Introduction to Information Technology	必修	2単位	1	担当		MOCHTZ Amanoi	
概	概要 コンピュータの普及により情報社会となった現在では、コンピュータを使った世界でも実社会と同様ルールとマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータやネットワークをでした際に、ルールやマナーの欠如が原因となり、トラブルに巻き込まれたり、逆に知らず知らずのうちラブルを起こしていることがある。これらの現状を踏まえ、本講義では、情報モラルを含めたコンピュ全般の話題について広く講義し、情報社会においてコンピュータを適正に使うための最低限の知識をつけることを目的とする。							クを利用)うちにト /ピュータ		
科目 (到達		ナーを	ピュータの仕組みを理解 と持って利用できる.				ットワ	ワークで	をルー	ールやマ
教科書 器材等		情報セキ	- ネット社会を生きるための情 キュリティ読本三訂版(実教出版 フーク社会における情報の活用	汳)						
評価の 方			E期試験80%, プレゼンテーミ わる違法行為等があった場					こより評	価する	5. 授業内
関連	科目	各科の)情報系科目							
			<u> </u>	受業計画						
第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第		総電W情情復前Sセワワプププ復前ススコ情情情情復後コココココ合子り報報習期ロキーーレレレ習期ププン報報報報習期ンンンンンドッペを在一中はコートでもも、オレレビののネネー中にヒビヒビ	マッドシートトート (アンドシート) デンタル表現 (アンデジタル表現) アントワーク (アントワーク)	・発信 ・発信 実 解解決決(2) 類解解決決(3) 類解決決(4) (5)	ですが、参照	Affilia × FIJがを	ある回 に	本	きませ、	<i>ω</i> ,)
オフィスアワー			毎日昼休み							
授業アンケート への対応										
備考										
更新履歴		20120	0326 新規							

学 科学年 概要 科目目標 (到達目標) 教科書 器材等 評価の基準と 方法 関連科目	科目 分類物質工学入門[物入] Introduction of chem. and biochem.実験・ 実習 必修前期 単位学習教育 目標 単位担当後藤 孝信物質工学とは、物質の組成、構造、変化について基礎的理解を示した上で、有用な物質を見い出して利用したり、新規に作り出す学問であるが、その根底には"ものづくり"に共通して必要とされる素養、つまり、創造力、忍耐力、そして調査解決能力を要する。本講義を通じて、"ものづくり"を理解し、そのために必要な素養を身に付ける。与えられたテーマについて、要点を理解すると同時に、生じた問題解決に向けて調査と試行錯誤を繰り返し、内容を向上させることができる。パソコン、ゆで卵、新聞紙、はさみなどの各テーマに必要な機材授業時間に作成した"もの"と、その作成に関するレポートの完成度を評価の対象とする。高学年の実験と実習					
回 日	授業計画 (授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)					
第 1回 4/11 第 2回 4/18 第 3回 4/25 第 4回 5/16 第 5回 5/23 第 6回 5/30 第 7回 6/13 第 8回 6/20 第 9回 6/27 第11回 7/11 第12回 7/18 第13回 7/25 第14回 8/1 9/19	本科目の説明,学科の先生の研究紹介(後藤)学科の先生の研究紹介(蓮実先生,芳野先生)学科の先生の研究紹介(押川先生,稲津先生)学科の先生の研究紹介(大川先生,竹口先生)学科の先生の研究紹介(は一間先生)明が割れない新聞紙の包み方1(試作)明が割れない新聞紙の包み方3(軽量化への試作)明が割れない新聞紙の包み方3(軽量化への試作)明が割れない新聞紙の包み方4(軽量化実地試験)物質工学科のイメージキャラクター,キャッチコピー,口ゴ作成1物質工学科のイメージキャラクター,キャッチコピー,口ゴ作成2(試験計画表の配布)研究室配属ゼミ(試験対策について)物質工学科のイメージキャラクター,キャッチコピー,口ゴ作成3物質工学科のイメージキャラクター,キャッチコピー,口ゴの発表会と授業アンケート					
オフィス アワー 授業アンケート	平日の早朝(7:30-8:30)と,講義や会議の時間を除く夕方(16:30-17:00まで)に対応できる。					
への対応	黒板への板書を丁寧にする。評価の基準を明確にする。					
備 考 再新履歴	レポートはその提出を厳守のこと。					
更新履歴	20120326					

学年	科目 物質の化学 講義 H24 後期 ^{学習教育} 小林 美学								
C1	Basic Chemistry for 担当								
学科	分類 Basic Chemistry for Materials Science 必修 1単位 2 KOBAYASHI Migaku								
	化学は物質を対象とする科学であり、その特徴は、観察、実験を通して、物質の構造や性質、反								
概要	応を調べることにより物質の特徴を理解し、物質に関する原理・法則を見いだすとともに、その知								
	識を生かして物質を利用したり目的にかなった物質をつくり出したりすることにある(高等学校学習 指導要領より)。この特徴をふまえながら、有機化合物の性質や反応について学ぶ。								
	有機化合物の性質や反応を観察,実験などを通して探究し,有機化合物の分類と特徴を理解す								
科目目標	るとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。「有機化学I」の受講に								
(到達目標)	差し支えのないレベルの学力を身につける。								
教科書	化学I, 数研出版, フォローアップドリル 有機化合物, 数研出版								
器材等	実験時には白衣と保護めがねを使用する。								
評価の基準と 方法	定期試験を80%、小テストを20%で評価し,そこから課題の未提出分を減点する。								
関連科目									
DAZ III	授業計画								
参観									
第 1回	ガイダンス,有機化合物の特徴と分類,有機化合物の分析								
第 2回	飽和炭化水素								
第 3回	不飽和炭化水素								
第 4回	アルコールとエーテル								
第 5回 第 6回	アルデヒドとケトン 実験1「アルコールとアルデヒドの性質」								
第 7回	実験「「バルコールとデルケー」								
第 8回 ×	COLUMN L DES NEW								
第 9回	エステルと油脂								
第10回	芳香族炭化水素								
第11回	フェノール類								
第12回	芳香族カルボン酸								
第13回	実験2「ナイロン66の合成, サルチル酸メチルの合成」								
第14回	芳香族アミンとアゾ化合物								
第15回 ×									
第16回	まとめ								
Ĭ									
ETHILITIES									
111111111111111111111111111111111111111									
オフィスアワー	火曜日 15:30-16:30								
授業アンケー	(年乳乳日)でつき 和泉乳)								
トへの対応	【(新設科目につき、記載なし)								
備考	実験は一般化学実験室で行う								
更新履歴	20120328新規								